第５回瑞浪市市民まちづくり会議　会議録

と　き：令和６年１１月２０日(水)　午後７時～
ところ：瑞浪市役所西分庁舎１階会議室

次　第

１．あいさつ
２．議事
（１）前回の子ども及び若者のまちづくりへの参加促進事業の評価等のまとめについて
１）市民協働課より説明　資料No.１―１，１－２，１－３
２）まとめについての委員の意見交換
（２）前回の企業・大学等との連携事業の評価等のまとめについて
１）市民協働課より説明　資料No.２―１，２－２，２－３
２）まとめについての委員の意見交換
（３）これまでを踏まえての答申案について
１）市民協働課より説明　資料No.３
２）まとめについての委員の意見交換
（４）これまでの検証事業を振り返っての感想等
３．閉会のことば

配　布　資　料

・次第　(別紙)
・子ども及び若者のまちづくりへの参加促進事業の全体評価の資料　資料No.1-1
・グループワークまとめ　資料No.1-2
・グループワークまとめ　資料No.1-3
・企業・大学等との連携事業の全体評価の資料　資料No.2-1
・グループワークまとめ　資料No.2-2
・グループワークまとめ　資料No.2-3
・瑞浪市まちづくり基本条例に基づく取組みの検証結果について（答申）　資料No.3

出　席　者

・出席委員
渡邉俊美委員　鈴木圭子委員　高野雅夫委員　後藤誠一委員　小倉弘次委員
足立弘文委員　板垣真裕美委員　本荘恵子委員　中山陽翠委員　石川敏美委員
・欠席委員
小野由美委員
・事務局
正木英二（みずなみ未来部長）　奥谷ひとみ（市民協働課長）
中筬高弘(市民協働課まちづくり支援係長)　大髙まりあ(市民協働課まちづくり支援係)

１．あいさつ
（渡邉会長よりあいさつ）

２．議事
（１）前回の子ども及び若者のまちづくりへの参加促進事業の評価等のまとめについて
１）市民協働課より説明
２）まとめについての委員の意見交換
（委員）三段落目の「子どもたちのやってみたいことの調整と当該調査」という部分が重複している。
（事務局）子どもたちのやってみたいことへの調整の部分を、子どもたちの成長や学びに向かうように事業の調整や事後のアンケート調査へ修正する。

（２）前回の企業・大学等との連携事業の評価等のまとめについて
子ども及び若者のまちづくりへの参加促進事業（生涯学習課）
１）市民協働課より説明
２）まとめについての委員の意見交換
（意見、質問なし）

（３）これまでを踏まえての答申案について
１）市民協働課より説明
２）まとめについての委員の意見交換

○地域計画策定事業について
（委員）地域計画策定事業について、地域として大枠の合意形成につながる方法になったところは評価できる。また、具体的な活動が動き始めた地域がある。陶や明世、日吉など、このワークショップを行ったことで、新たな活動が立ち上がったことについて、一行加えたほうが良い。
（委員）市役所の全職員が、地域の祭りや盆踊りなどの行事に参加しているか。地域の住民として参加意識があるのか。瑞浪市内在住の職員の半数でもそういうことに関心を持たれれば、いろんな地域の行事に顔を出して、そこでの声をフィードバックすることができると思う。活動に参加することで他の地域にも影響してくる可能性がある。まちづくりの一番近いところにいる方々だと思うので、その部分についてブラッシュアップしていただきたいと感じる。
（委員）最後の部分で、「見直す時期にきている」の後に、見直し方法やどのような方向性でやるのかについて、付け足したらどうか。新たな担い手が見いだされ、後継者や伴走支援につなげ、持続可能なまちづくりへ変化させていきたいという形にしたらどうか。これで終わってしまうわけではなく、１０年間のビジョンを作ったわけなので、中間見直しを含めた、その先のことを表現されたらどうか。
（委員）「職員のファシリテーターとしての能力を磨いていただきたい」の部分について、職員に負担が集中する懸念があるので、「職員のファシリテーターとしての能力を磨くとともに、職員の研修機会の充実に努めていただきたい」のように、個人で頑張るのではなく、

組織として職員の育成を支えるという形が良いと思う。
（委員）３回のワークショップで１０年計画を作成したというところで、ある程度の見直しは必要であると思う。今後、十分な支援、フォローはしていくといった部分も付け足しておくと良いと感じる。

○シティプロモーション動画等製作事業について
（意見、質問なし）

○子ども及び若者まちづくりへの参加事業について
（意見、質問なし）

○企業、大学等の連携事業について
（意見、質問なし）

○条例改正について
（意見、質問なし）

（４）これまでの検証事業を振り返っての感想等
（委員）この市民まちづくり会議が、ワークショップ形式ということで、一人一人が意見を出し合い、その意見が答申に反映されるということは、大変良い形であると感じている。今後もこのやり方でお願いしたいと思う。
（委員）ワークショップの参加経験がなかったが、実際に参加してみて、委員の皆さんの意見がどんどん出てきて、会議の時間が足りない経験をした。委員の皆さんのエネルギーを感じた。他の委員の意見にあったように、市の職員の方に、地元の行事に意識を向けていただきたいと強く感じた。他の公職委員として、今年度は市制７０周年の様々なイベントが計画されているので、できる限り参加させていただいている。一人の力は小さくてもそのエネルギーがつながっていくことが大切だと思っている。また、周知の仕方がとても難しいので、周知が課題だと感じる。現代はＳＮＳの時代だが、人と人とのコミュニケーション、対話の中で伝えていくことを忘れてはいけない。ＳＮＳが使える人はＳＮＳで発信し、できない人は別の形で伝えていく。そんな思いやりを持って、この瑞浪市をなんとか元気にしていけたらと考えているので、自分ができることをこれからも続けていきたいと思う。
（委員）ワークショップ形式が非常に良いと感じて参加している。別の会議等では、発言する人が偏る傾向にあるが、ワークショップ形式だと、みんなが発言できるし、付箋に書いて共有できる点が良い。また、実際に地域の現場で活動された住民の方や担当職員の生の声を聞いて、その内容をベースに議論ができたことも非常に良かったと思っている。
（委員）瑞浪市に住んでいるのに知らないことばかりだった。地域のことや活動されていることを会議に出席して知ったので、周知の問題は一番の課題だと思う。せっかく良い取り組みをされているので、伝えきれてないことはもったいないことだと感じる。また、今後の課題としていただきたいのが、多文化共生についてです。以前は、派遣社員として入国し、期間が過ぎると瑞浪市から去って行かれるパターンでしたが、最近では家を建てられて、

家族とともに住んで見える方が増えている。ぜひ、いろんな文化の方が共存するまちづくりといった視点から、課題の一つに入れていただきたいと思っている。

（委員）最初は手探り状態であったが、ワークショップを重ねるにつれて、これが本当の意味でのまちづくりで、みんなの意見を聞くことができる場だと実感している。地域のことは把握しているつもりでいたが、地域によってかなり温度差があることが分かった。今後、みんなに声をかけて、その地域でしかできないことを何か出来たらと考えている。

（委員）この会議は、小学生や中学生、そして高校生、大学生といった青少年の育成をひとつのポイントに検証した会であったと感じている。まちづくりの計画については、今後の１０年間、今の子どもたちがどのようにこの瑞浪市を考え、ふるさと瑞浪をどのようにしていくのかと考えてくれる大切な時期として、まちづくり活動をとらえてという思いで参加させてもらった。今後、この計画を実のあるものにしていただくような取り組みを続けていただきたいことが一点目。二点目は、関係者への提言や提案を市民協働課としてしっかりつないでほしい。マンネリ化した事業はスクラップし、新しいアイデアを取り入れていかないと、市の行政としての活動がストップしてしまう懸念があるので、失敗してもいいので、少しでもやり方を変えるなどの調整をすることが今後の活動を活性化させる一歩ではないかと思うので、お願いしたい。三点目は、今回の会議で行った検証をぜひ実のあるものにしていただきたい。市の広報等でもＰＲされることと思うが、市民の方に知ってもらうことに意味がある。この会議で話し合った意見をここで終わらせるのではなく、つないでいただけると有難い。また、陶や明世の若いリーダーの活動が始まったことを大切にしていただき、他の地区でも若いリーダーが活躍し、まちづくり活動が継続していけるようなサポートやアドバイスを含めた市民協働課の活動に期待したい。

（委員）今回が初参加で、ワークショップも初めての経験だった。ワークショップはとても話しやすい環境で、自分の意見を受け入れていただき、いろんな方の意見を聞くことができた。個が線になってつながることや何かを始めることなどを学び、自分にとってとても有意義な時間だった。自身は名古屋市から嫁いできた。実家の母が、瑞浪市は名古屋市と違って人の顔が見える住みやすい場所で良いと言ってくれた。自分も市役所の方やまちづくりの方、学校の先生など近い距離で接することができ、安心して生活できている。田舎に来たのではなく安心して住める場所に来たのだと、この会議に参加できて母の言葉と一致した思いである。改めて瑞浪市で良かった思うことが増えてきている。今後、新たに瑞浪市に移住される方や子育てをする方など、これから未来のある方たちが同じ共感が得られるような瑞浪市を作っていけたら良いと思う。そのためにはどうしていくことが良いのか考えていきたい。

（委員）この会議でグループワークができたことが良かったと感じている。様々な立場の環境の違う方々が一堂に会して意見を出し合うことが大切だと感じた。知らないことが多かったが、この会議に参加して知ることができた。若い方の参加が少ないと感じたので、今後は様々な年代の方が参加されればより良いものになると思う。

（委員）この会議に参加して、皆さんが自分の町に愛着を持って、いろいろな面で関わり合いを持ってみえることが分かった。ワークショップではたくさんの意見が出てくるので、ことあるごとに簡単なワークショップのような意見交換ができる環境ができるといいと思っている。まだまだ思いを持ってみえる方々がたくさんいらっしゃると思うので、このような機会をもっともっと増やしていただけるような施策を取っていただきたい。もう一

つはやはり周知である。せっかく各地域で様々な行事をやってみえる、関りをもってみえるのに地元の人しか知らないので、市レベルで情報発信ができるようになれば良いと考えている。

（委員）とても良い会だったと思う。皆さんで議論したことが答申としてまとめられてつながっていく、この言葉は非常に画期的だったと思う。実際に活動してみえる市民の方々に話を聞けたのも大変良かった。むしろ、我々が参加して現場で話を聞くということも良いと思う。多文化共生の課題について触れると、愛知県蒲郡市のまちづくりにも関わっているが、市民まちづくりフォーラムで市長と市民が対話する企画があり、多文化共生のテーマで行った。蒲郡市の外国人は３パーセント、４パーセントぐらい。岐阜県内では美濃加茂市が５パーセントを超えている。３年程度で帰国するのではなく、ずっと家族で住み続けて子どもを育てる方がどんどん増えている現状である。その方たちが、地域の一員となるのが大きな課題である。蒲郡市の例では、自治会の長の方で順番に代わっていくのではなく、ある程度固定された会長がみえて、その方が、新しく入られた方には引っ越しが落ち着いたタイミングで訪問し、直接会って自治会のことやゴミ出しのことを説明し、自治会加入を依頼している。外国人の方にも同じように行い、コミュニケーションをとって働き掛けを行っている。こうしてちゃんと伝えれば、積極的に様々な活動に参加してもらえている。外国人や日本人関係なく、一緒にこの地域の住民として活動する取り組みが大変印象深かった。外国人には、様々なルーツを持つ人がいる。言葉の問題等の非常に深刻な問題を抱えている。課題が一人一人違うので、行政が把握するのは大変だと思う。瑞浪市も取り組まれていると思うが、今後、取り上げていただくと良いと思う。この会議の委員の皆さんの話し合いのエネルギーが高まってきている。このエネルギーが地域の活動にどうつながるのか見えないところが残念である。今回まとめた答申も地域の人たちに届かないのではないか。一緒に体験しないと伝わらないところがある。地域で活動されている方々の悩みや問題点等を共有し、解決の糸口になるような会議が開催できると良いと感じている。委員の皆さんとまちづくりで熱心に活動してみえる特に若い方の日頃の悩み等を一緒に聞いて、アドバイスや一緒に議論するような会議ができたらと思う。このエネルギーが地域の活動に伝わる取組があると良いと思う。

３．閉会のことば

みずなみ未来部長より閉会のことば